

地震一口メモ No. 198

内陸地震に備える

阪神・淡路大震災も引き起こした活断層の怖さ

1月17日に発生した「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」は阪神・淡路大震災として知られるように、身近な場所で甚大な被害が出た地震として皆さんよくご存知だと思います。この兵庫県南部地震の震源となったのは図1の野島断層という活断層で、地表に現れるような大きな破壊が起こったことや、兵庫県の野島断層保存館で現在も保存されていることなどから聞いたことがある方もいらっしゃるかと思います。活断層というのは過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられる地中のずれのことです。図2のように近畿、中国、四国地方には多くの活断層が存在しています。図2の活断層の中で今後30年以内の地震発生確率が3%以上のものについては、図の中で名前を付けるとともに表1に詳細を書いています。3%という値は低く感じるかもしれませんが、活断層の活動間隔は数千年程度と長いため、30年程度では地震発生確率は高い値にはなりません。兵庫県南部地震も発生直前における地震発生確率は0.02～8%でした。表1の断層帯は平均活動間隔から見た地震後経過率（※）が、1.0より大きいかそれに近い値になっていて切迫度が高いと考えられます。

一方で活断層が無いところに住んでいる方は安心ということではありません。活断層は過去に繰り返し発生して地表にもその痕跡が現れているものですが、地震の規模がそれほど大きくないため地表に痕跡が残っていなかったり、風化や浸食により痕跡が不明瞭になっている断層もあります。どこに住んでいても地震の危険があると思って日頃から備えるようにして下さい。



図1 水田に表出した野島断層

活断層の名称	予想される地震の規模	今後30年以内の地震発生確率	地震後経過率
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	ほぼ0～5%	0.2-2.2
上町断層帯	7.5程度	2～3%	1.1-2より大
宍道（鹿島）断層帯	7.0程度	0～5%	0.8-1.8
弥栄断層帯	7.7程度	ほぼ0～6%	0.02-2より大
安芸灘断層帯	7.2程度	0.1～10%	0.6-2.4
中央構造線断層帯 石鎚山脈北縁西部	7.5程度	ほぼ0～12%	0.2-0.9

※注 30年以内の地震発生確率は2021年1月時点の値です
 これ以外の活断層の評価については
 地震調査研究推進本部のHPで見ることができます

表1 図2中で今後30年以内の地震発生確率が3%以上の活断層

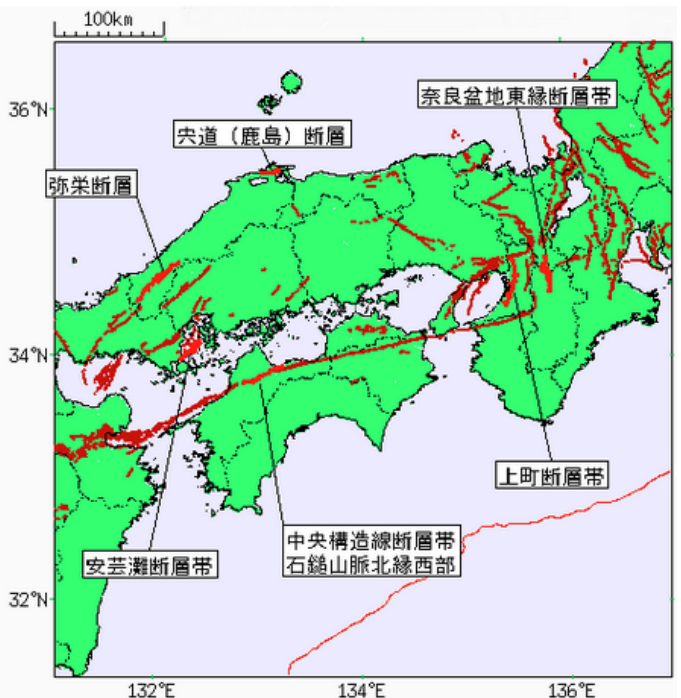


図2 近畿、中国、四国地方にある活断層（地震調査研究推進本部が評価を行っている活断層を赤色で表示）

※地震後経過率とは、現時点の地震発生の切迫度を示す数字です。

1に近づくと、次の地震がいつ起きてもおかしくない状態と言えます。

内陸地震に備える
 -内陸地震が起きる仕組み-

大阪管区気象台 HP には「内陸地震に備える」ページがあります。
 内陸地震の起こる仕組みをより詳細に紹介しています。
<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nairiku.html>